

2011 年度第 7 回執行理事会議事録

期 日：2012 年 1 月 9 日（月，祭日） 13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：久田副会長 渡部副会長 藤本常務理事 齋藤副常務理事 石渡 井龍 小嶋 坂口
高木 内藤 中井 平田 星 向山 各理事，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）： 宮下会長 西（石渡） 藤林 山口 各理事

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 14 名，委任状 4 名，合計 18 名の出席。

*前回議事録を承認した

I 審議事項

1. 2012 年度の事業計画基本方針案の再検討について

理事会の議論に基づいて、事業計画の具体的な内容等を再検討した。いくつか修正意見が出て、修正することとした。

- ・会員減をくいとめることは無理な状況であるが、施策としては重要なことであるので、「会員増を目指す」とする。
- ・「高校教員の大幅採用」というのは難しいので、「増加を目指す」ことにする。これについての具体的な行動がありうるかどうかは、検討が必要。
- ・「理事会の役割強化」ということについては、理事会の役割は定款で決められているので、「理事の役割の強化」という方向で書き直す。
- ・「東日本大震災に対する取り組み」というのは、「防災・減災に対する取り組み」とする。
- ・「ホームページの強化」については、日本語の足りない部分の強化，英語版の外注等を念頭に置いた具体的内容のある文言にする。

2. 年会行事関係について提案

1) “The Geology of Japan”（英国地質学会 GSL より 2014 年出版予定）執筆への協力と 2012 年年会（大阪）におけるこの書籍の出版に向けての英国地質学会との共催シンポジウム開催について（石渡）

日本側では、WALLIS 氏が編集陣に加わっているが、現時点では、地質学会として当該書籍に関与・協力する体制にはなっていない。関与・協力すべきか、どうかの議論をおこない、したほうがよいという方向で、大阪大会での Workshop 開催等を通じて協力することとした。

2) 2013 年年会（仙台）における米国地質学会（GSA）の Global Meeting との共催について（石渡）

Global Meeting は全体テーマがはっきりした、米国で開催する学会で、参加登録費は 3 万円前後（会期中の小巡検付き）であり、巡検を重視する。東北大学内において仙台大会と同時開催で行う意向を GSA に伝えるとともに、開催に際しての先方の希望を聞く。

3) 韓国地質学会との交流（高木）

新会長 Yu, Kang Min 教授（兪剛民，延世大学校）の大阪大会への招待について
交流協定を結んでいる国とは、基本的に双方の会長在任中に 1 度は交流の場を設けるべきとのことから、招待する方向で話を進めることとした。

3. HP に「地質学者に聞いてみよう」コーナー開設の提案（石渡）

火山学会の火山学者に聞いて見よう」コーナーは諸般の事情により現在受付停止状態となっている由。地質学会としてはアウトリーチとして、その役割を担うべきではないかとのことで、開設を検討した。

現在既に掲載されている Q&A や今後掲載する Q&A それらの中に適切な回答が見いだせない場合に質問を、という感じにする。回答者の選出については、専門部会等にシニア会員の活動の場をつくることを含めて検討してもらいたいが、とりあえず、常務陣をキーパーソンとして、開始することとした。

4. 友の会の開始について：友の会 SNS 利用規則の策定（坂口）

SNS の試験運用は開始されたが、盛り上がり不足しているので、学会側から定期的な刺激策としてサイエンスライターの原稿や、トピックを流す必要があると考えている。

SNS は、ユーザーが勝手にグループを作ることかできるのがメリット。現在、40 数名の参加者で 6 グループできている。

友の会のポスターを作成し、全国の高校に配布することを予定している。

利用規則案の検討では、規則策定の趣旨をはっきりと書くよう指摘があった。リンク禁止の項目では、禁止項目番号を具体的に示しておくよう求められた。また、本規則の依り代となる学会倫理規定を SNS 会員にも援用するようにしておく。

これとは別に、学会の権限や運営者側が守ること、担当は誰、等のこの SNS は何かということを学会として定義する規則が必要となる。これについては、広報委員会の細則としてつくり、執行理事会承認、理事会報告の手続きをとる。新学期に合わせて本格開始する方針を承認した。

5. その他

1) 北中康文ほか著による「列島自然めぐり 日本の地形・地質一見してみたい台地の風景 116」

（3月中旬出版予定、文一総合出版）について、学会推薦名義使用の申請があり、これを承認した。

2) 各賞選考検討委員会理事会推薦委員の選出

指定委員：宮下純夫・石渡明・鳥海光弘・岩森光・小嶋智・久田健一郎・井龍康文・前川寛和・Simon Wallis

執行理事会推薦委員として、ご本人の了解を得て、松本良会員、大友幸子会員を推薦することとした。

3) 地球史ポスターの件

リーフレット委員会から再修正された原稿に対しての意見を求められた。内容やレイアウトの点で前回の提案に対してあまり大きな改善が見られず、現状のままの原稿では市民向けのポスターとして印刷に採用することはできず、出版形態も含めて再検討を要するという結論になった。担当の山口理事ならびにリーフレット委員会、著者に対し、執行理事会の検討内容を伝えることとした。

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

1. 「第12回子供のためのジオカーニバル」（後援）の終了報告。5つのセミナー（うち

地質 1), ブース展示 11 (うち, 地質 5 ブース) を実施. 昨年を上回る 2,800 名の来場者を得たとのこと.

2. 東レ科学技術研究助成に応募した平野直人会員について, 採択が内定した.

贈呈式は 3 月 15 日という連絡があったので, 会長か副会長が出席する方向で調整する.

3. 筑波大学 「科学の芽」 賞 (後援) の授賞式・発表会 (12/23) へは久田副会長が出席.

4. 三菱財団「自然科学研究助成」の公募 (〆切 1/24) : News 誌, HP, Geo-flash に掲載.

<その他>

1. 2011 年度自然史学会連合総会議事録の報告が齋木健一委員よりあった.

- ・連合主催の自然史講演会が, 静岡県自然史博物館ネットワークとの共催で開催. 地質学系の講演も火山地形, 古生物等の講演が 3 件.

- ・林原自然科学博物館を救うための活動, 東日本大震災で被災した博物館標本を救う活動について報告.

- ・自然史連合の新代表に JAMSTEC の北里洋 氏が選出された.

<会員>

1. 今月の入会者 (5 名)

正会員 (2 名) 栗原憲一 栗谷 豪

〃 院割 (1 名) 入谷正人

〃 学生割 (2 名) 内山雅貴 北野一平

2. 今月の退会者 (正 1) 松本拓也

3. 今月の逝去者 (名 1, 正 3)

名誉会員: 齋藤林次 (2006/3/27)

正会員: 西上原 航 (2009/2/11), 藤澤信一 (2010/3/18), 佐藤世章 (2011/12/16)

4. 11 月末日会員数

賛助: 26 名誉: 71 正会員: 4050 (正会員: 3855, 院割正会員: 183, 学部割正会員: 12)
合計 4147 (昨年比 -95)

5. 2011 年版会員名簿: 1 月末の発行で校正中

- ・今年度末には, 会費滞納による除籍者が 80 名ほど出る予定なので実質 4000 人.

長く音信不通の方や, ご家族からの連絡がないと情報が不明となるので, 特に古い会員の消息情報を, 事務局に連絡して欲しい.

- ・会費は同じで, ニュース誌だけの寄付会員を作る(通常の会員の権利はない)ということも考えてはとの意見が出たが, 定款を変える必要も出てくるので, 検討課題とする. それとは別に, 正会員に, 雑誌を送らない (必要としない場合) オプションも検討課題である.

<会計>

1. 支部, 専門部会等に来年度の事業計画ならびに収支予算についての提出を依頼した.

(2) 広報部会: 広報委員会 (坂口)

- ・サイエンスライターに, 新たに土屋 健会員が参加し, 7 名となった.

分野構成は次のとおり.

火山岩石 2 名 構造地質 2 名 地球物理 1 名 古生物 2 名

- ・サイエンスライターの第 1 回ミーティングを 1/12 (木) 開催予定

(3) 学術研究部会：行事委員会（星）

1. 行事委員の交代

現行過程地質部会選出委員：斎藤文紀会員（産総研）→ 川村喜一郎会員（深田地質研）.

2. 2012年学術大会（大阪大会）

- ・大阪大会ニュース no. 1 をニュース誌 1月号に掲載予定.
- ・トピックセッション募集締め切りを 3月 12日（月）とする.
- ・水戸大会同様、発表負担金を支払えばセッションでもう 1件（1人最大 2件）の発表を可能とする.
- ・上町断層を中心とする大阪都市圏地下構造に関するシンポジウム（近畿支部企画）を、竹村恵二会員を中心に検討中. 4月理事会で詳細を報告予定.

3. 2013年学術大会（仙台大会）

- ・12月 17日開催の東北支部総会（福島大学）に出席し、全体スケジュールや見学旅行申し合わせ事項などを説明.

(4) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）

- ・審議事項 3-1) および 3-2) を提案

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

1) 今月の編集状況（1月 6日現在）.

- ・2011年 投稿論文総数 90編 [総説 19（和文 18, 英文 1）, 論説 47（和文 42, 英文 2）, ノート 15（和文 15）, 報告 9（和文 9）] 口絵 9（和文 7, 英文 2）
- ・2012年 投稿論文総数 1編 [論説 1（和文 1）] 口絵 1（英文 1）
*2011年 論説には 5/31 までに投稿された短報を含む.
- ・査読中 60編 受理済み 14編（うち通常号 8 特集号 6）

(6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

編集状況の報告が以下のようにあった。

- ・2011年の 20巻のページ数は 555 ページとなり、予定に達しなかった.
- ・2012年 21巻においても依然受理原稿の不足が続いている状況.
- ・2012年 1月 1日より委員長が交代した.

旧：井龍康文・前川寛和

新：伊藤 慎・海野 進

(7) 企画出版委員会（山口）

- ・超歴史年表の再投稿原稿、著者からは、2枚をポスターとする原稿が再々度提出された.

(8) 社会貢献部会（藤林）

(8) ジオパーク支援委員会（高木）

- ・「2012年地震火山こどもサマースクール」の日程：糸魚川市、8月 18日（土）～19日（日）

(9) オリンピック支援委員会（久田）

- ・1/21（土）に委員会を開催する予定
- ・2016年に日本大会を招致すべく検討が行われている.
- ・3/25-27 地球でわくわく（アルゼンチン大会の本選）が行われる（ただし科学の甲子園が 3/24-26 で一部日程が重なっている）
- ・連合が公益法人となり、連合が窓口となれば、寄付集めの状況もよくなるものと考えられる.

(10) 震災復興事業プラン検討WG (高木・向山・藤本・斎藤)

(11) 連携事業委員会 (渡部)

・12月22日にJNESの2回目の会議が行われた。

(12) 支部長連絡会議 (渡部)

東北支部長の交代：川辺孝幸(山形大) (旧 竹谷陽二郎)

(13) 地質災害委員会 (斎藤)

(14) 専門部会

・環境地質部会：地質汚染-医療地質-社会地質学会主催「第21回環境地質学シンポジウム」(1/24-25, 早稲田大学国際会議場)を共催。

・構造地質部会：3/17-18 仙台で緊急集会が行われる予定。日本の地質構造100選(朝倉, 4000円台)の校正がでてきている

地質学会の部会が単独で共催をする際のルール作りが必要。

(15) その他

・J-StageのデータがXMLの形式になっていないので、トムソンがサーチしているデータベース候補にのらない。Googleにもそれぞれの論文が当たってこない。J-Stageあるいは仕組みのよくわかっている人に編集委員長から聞いてみることにした。

以上